

2015年度SIP-adus施策概要

施策名	自動走行システムの実現に向けた諸課題とその解決の方向性に関する調査・検討における歩行者移動支援システムの共通基盤研究に係る調査検討
担当組織	株式会社日立製作所 株式会社ナビタイムジャパン 共同提案体
作成者名(代表責任者)	石井 敦
プロジェクトの目標	高齢者や障がい者等の交通制約者を含むすべての人に対して安全・安心で優しい交通社会を実現するために、公共交通へのアクセス性が向上する歩行者移動支援システムを構築する。歩行者と周囲の自動走行車両の動的な位置情報等をサイバー空間上で融合し、注意喚起を促すことで、交通事故低減につなげる。
今年度の取組内容や結果等の概要	<p>歩行者移動支援システムは、共通基盤と、民間事業者が提供するパーソナルナビゲーション・アプリケーションから構成されている。本業務では、共通基盤として必要となる情報の調査・収集や管理・運用等のあり方、その活用方法について検討し、更に安全に対する意識醸成の取り組みについても検討を行った。</p> <p>既存情報においては、一部地域で整理されている歩行空間ネットワークデータが有用であるが、全国的展開は時間を要するため、比較的容易に収集できるデータの整備・活用方法について今後詳細に検討する必要がある。情報の提供方法については、ナビ事業者へデータを提供している地図事業者との連携が重要であるとの結論を得た。</p> <p>交通制約者個々への情報活用の検討は、今年度は車いす使用者/全盲/弱視の3タイプの被験者に協力いただき、パーソナルナビゲーション・アプリケーションのプロトタイプを用いて実フィールドにて実施した。その結果、個々の特徴に応じたルート案内やPICS連携機能が交通制約者にとって有効であることを確認した。安全に対する意識醸成については、国内外の事例を調査し、住民参加型活動による安全意識の浸透が施策として有効であることがわかった。</p>
今後の主な課題、取り組むべき内容	<p><今後の主な課題、取り組むべき内容等について、和英それぞれ数行程度で記述願います。(箇条書き可)></p> <p>今年度は、歩行者移動支援システムの共通基盤に関する基礎的な調査検討を行った。2017年度の実証に向け、引き続き、特に下記の観点で調査検討を進める必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none">a) より幅広いユーザーを対象とした実フィールドでの検証b) 必要とする情報の簡易な収集方法の具体的検討と活用c) 地図事業者と連携した情報提供の仕組みの検討